

～平成28年度 第9回未来創造セミナー～

## 備える防災からイツモの減災へ

キーワード : グループ・ダイナミックス / 愚者 / 選択

### 1. 集団の力学に向き合って：2つの震災のあいだ

- (1) 「専門は何ですか?」という問いに...研究スタイル (アクションリサーチ) の追求  
環境システム工学 (景観計画) → ボランティア人間科学 (地域共生)
- (2) きっかけとしての震災: 「押しつけの善意、善行でない」 (2010.1.25: 京都新聞)  
「自分にできることをしたいという思いにとらわれ、何も見えていなかった。」
- (3) 比喩を通して発想をずらす: 「相互補完の関係づくり」 (2007.8.24: 京都新聞)  
「地域の活性化に必要なのは、地域内での『借り物競走』だ」
- (4) 問題解決のためには「仲間」と「物語」をつくる  
外部から調達する「ひと・もの・かね」、工夫して創出する「情報・発想・人脈」

### 2. 「被災地のリレー」の視点から：被災と未災を結ぶ支援

- (1) 「災害は潜在的な社会変化を顕在化し加速する」(『災害社会学入門』弘文堂, 2007, p.259)  
新潟県小千谷市塩谷集落との関わり...名詞ではなく動詞で捉えてみる
- (2) 渥美公秀『災害ボランティア』(弘文堂, 2014) ... 「被災地のリレー」  
「苦しみや悲しみとは関係のないところでのサポートが、被災者の癒やしに繋がる」
- (3) 災害を追体験することで未災者が学ぶ: 「学生らも定点観測」 (2013.12.22: 朝日新聞)  
「レンズ越しに再生の足取りを見つめるまなざしは、世代を超えて受け継がれた」
- (4) 避難指示解除の「その日」に立ち会う (2015.8.31: 京都新聞)  
一般社団法人ならはみらい (<http://narahamirai.sakura.ne.jp>) と立命館災害復興支援室の協働

### 3. 「あの日」と「その日」を結ぶ：防災から減災へ

- (1) 『地震イツモノート：阪神・淡路大震災の被災者167人にきいたキモチの防災マニュアル』(2007、木楽舎)  
「隣の人とあいさつしている。それが大きな防災でした」
- (2) いのっこ探検まち歩き(2006.7.29)...参考「ぼうさい探検隊マップコンクール」(日本損害保険協会)  
「自分たちが暮らすまちを探検してみよう！きっと新しい発見ができるよ。」
- (3) 防災グッズ買い物コンテスト(2014.4.18@イオンモール茨木)→2017.2.11@イオンモール草津  
→立命館大学ボランティア・サービスラーニング研究会(2016.3.28) →飲み会(2016.10.26)
- (4) 防災大喜利 (2014.4..18@イオンモール茨木)  
「とんちで防災」(あいうえお作文、川柳づくり、名言募集、防災ゲーム)

### 4. 次の災害に向き合うにあたって：「支援力」と「受援力」のよい均衡を図る

- (1) 内閣府「地域の『受援力』を高めるために」  
平時に高める「受援力」...地域の情報整理、地域住民同士の助け合い、誰かを把握
- (2) 平成28年熊本地震での「農業復興ボランティア」 (2016.5.29: 産経新聞)  
生活再建のためのリズムをつくる (亡くならなかった方々の暮らしを支える)
- (3) イヴァン・イリイチが指摘する「逆生産性」...社会の自然治癒力がそこなわれていないか?  
過度な発展・進化は逆に本来の目的の実現や新たに発見した問題への対応を困難にする
- (4) 「問題発見→問題対処→問題解決」(xをoに) より「魅力を掘り下げる」(oを◎に)  
「あれをしよう」というモデルを探すと共に「これをしよう」と仲間呼びかける